

宮城県産スギでマイ箸をつくり、つくったはしで食事をするワークショップ開催 （「つくって、たべる。」／宮城県）

事業の目的

日常生活の中で木との関わりを意識する機会が少ない人々に向けて、「はしづくり」という身近な体験を通じ、「木を使うことが森を守ることにつながる」ことを知ってもらうために実施した。「自分が作ったはしを、すぐに食事で使う」ところまでを一連の流れとして構成した。

事業の内容

① はしづくりワークショップ

宮城県産のスギ材を使用し、紙やすりのみを用いてマイはしを作成した。刃物を使わないことで、初心者でも安心して参加できる内容とした。制作の途中では「紙やすりで磨くにつれて手触りが変化していくこと」「だんだんと木の香りが強くなること」など声がけして進めた。

② 食事

宮城県産の食材と特用林産物キノコをなど使ったメニューを提供していただいた。箸をつくるワークショップはたくさんあるが「作った箸ですぐに食事をいただく」ということができるため、ほかにはない特別なワークショップとなった。

③ SNS用動画制作

「森と食をつなぐ」をコンセプトにした60秒の動画を作成。都市の中の木と生活の中の木を、洗練されたイメージで動画にした。

④ その他

・冒頭の挨拶では、山を守るために都市部に住む私たちができることとして、木の製品を使うことの大切さを話した。山に入って仕事はできなくても、木を使うことが山のためになることを伝えた。

・はしづくりを始める前に、木や山に関する簡単なクイズ大会も実施した。中でも「特用林産物」に興味を持つ人が多かった。

・はしづくりと食事を組み合わせることで、木と暮らしが密接に結びついていることを感じてもらった。

参加人数

宮城県在住 40-60代の男女 8名

活動の様子



冒頭の挨拶とワークショップ概要説明

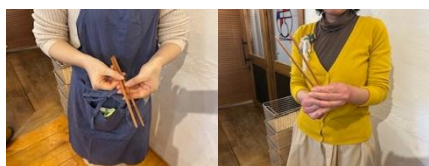


講師による解説と指導（木使團）



はしづくり体験の様子

同左



出来上がった参加者のはし

同左



作ったはしで食事をいただく



作ったはしで食事をいただく



店頭にチラシを掲示



宮城の里山で採れた葉などで作った
お茶のお振舞い